



2021.9.1

のびるほとっ子！

もっと ほっと ずっと

横浜市立保土ヶ谷小学校

「多様な運動経験」

学校長 小川 克之

7月21日(水)から始まった37日間の夏休みも終わり、子どもたちの元気な姿が戻ってきました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で、例年より短く16日間の夏休みでしたが、今年度は臨時休業をふくめ約40日のお休みとなり、計画的に過ごされた方も多かったのではないのでしょうか。毎日こつこつと取り組んでいる子どもたちの姿、そして子どもたちに寄り添ってくださる保護者の皆様の姿も思い浮かびます。ありがとうございました。おかげさまで、大きな事故やけがもなく9月1日を迎えられることに感謝申し上げます。

話は変わりますが、数年前に元日本代表のサッカー選手の福西崇史さんとある学校の校長室で話をしたことがあります。その当時福西さんは、すでに現役を引退されており、現在もテレビ等でサッカーの試合の解説をしていらっしゃるようです。私もサッカーが好きだったので、いろいろな質問をした中で「小学生の時からずっとサッカーをされていたのですか？」ということ聞いてみました。福西さんは愛媛県のご出身で、高校もサッカーの名門校ではなかったそうです。たまたま強豪校との試合の時に(対戦校の選手を)見に来ていたJリーグのチームの方に声をかけていただき、入団が決まったそうです。小学校時代は器械体操をずっと習っており、サッカースクールにも入っていたそうですが、器械体操の経験がサッカー選手として生かされていたということです。

福西さんとお会いしたときも、身長は高いのですがどちらかというと細身でがっちりとした印象はありませんでしたが、実際にグラウンドでサッカーのプレーを拝見しますと、とにかく体幹が強く、当たり負けしないことに驚きました。

校長室に戻り、再度先ほどの質問をしたところ、「小学校時代の器械体操の経験があるからこそ、サッカー選手として頑張ることができたと思います。もし器械体操をしていなければ、サッカー選手としても(けが等で)早く引退していたかもしれないし、日本代表になることも到底できなかったと思います。」と答えてくださいました。また、「小学校時代は、1つの運動だけではなく、いろいろな運動に親しんでほしいと思います。いろいろな動きを経験することがこの時期は大切だと思います。私は器械体操との出会いがサッカー選手としての基礎をつくってくれたと思いますし、現役時代も大きなケガをしませんでした。」と笑顔で話してくださったことが印象に残っています。

福西さんの言葉のように小学校時代はいろいろな運動と出会い、多くの動きを体験することが大切だと思います。そこで初めて、身のこなしやバランス感覚も身についてくるのだと思います。それは体育の時間ばかりではなく、休み時間の鬼ごっこやドッジボール、遊具遊びにも通じるのではないのでしょうか。

今後も新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮しながら、教育活動を行ってまいります。変更や延期、中止もあるかもしれませんが、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。